

活動名称 (40字以内)	伊豆の体験活動 -南伊豆という一地域との連携に学ぶ-		
団体名等	大学院農学生命科学研究科附属演習林 樹芸研究所		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input checked="" type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動		<input type="checkbox"/> 面接
	<input type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動	募集人数	1 人
	<input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
活動方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンラインを活用しつつ現地活動を行う <input type="checkbox"/> オンラインのみで活動を行う		
大学院学生	<input checked="" type="checkbox"/> 含む <input type="checkbox"/> 含まない		
参加資格等	学部学生及び大学院学生(申請時に提出する参加申請書により、意欲的に取り組めると主宰が認める者。)		
活動期間	2024/2/17(土) ~ 2024/3/18(月)	主な活動予定場所	静岡県南伊豆町
	6日間		
目的	呑み込みの好い東大生は知った気分になってしまうことがある。知ったかはとても危うい。この体験活動は様々な問題が発生している現場を意識する(見る・感じる)ことの重要性を体感してもらうことを主目的とする。東京には見えづらい・感じづらい里地里山が抱えている諸問題に向き合い、地域の方々と連携して取り組むことを通して、問題に気づく心と問題解決に取り組む実行力を鍛える。何より地域の方々の東大生に向ける期待を実感して欲しい。		
具体的な内容 (800字程度)	<p>東大のレイト・スペシャリゼーションを、何をすべきか決めかねることへのモラトリアムと消極的に受け止める向きがある。そういう人も、「どうせこのまま決められないんだ！」と諦めないで欲しい。体験活動を、レイト・スペシャリゼーションに活用するのによいかも知れない。東大生の皆さんの思っている規定のルールの上にはきっと山林や林業と向き合うということは存在していないでしょう。体験活動は、そういった未知の世界に飛び込んで様子を肌で感じるができるチャンスです。規定(?)のルールからあえて外れてみる機会を得ることを、東大生には是非ともお勧めしています。少し社会を俯瞰できるようになれば上出来。</p> <p>伊豆の体験活動では、コミュニケーション・他者や社会との連携を重視して取り組み、自分が社会から期待されているという実感、そして自分が社会とのつながりの中で活躍できるという実感を得て、気概・心をたくましく育てて欲しい。東京の様な大都会よりもずっと「人の営みの原点」が見えやすい南伊豆の里地里山を学びの舞台として、そこに暮らす地域の人々との連携を本活動の核心に据えている。獣害や竹林の問題について、地域で諸問題と向き合っているNPOの皆さんと一緒に行動して考えてみよう。そしてそのNPOの皆さんの熱い思いに触れ、意見を交わしていただきたい。大学外に飛び出して、地域NPOとの連携を通して、現実目に向け解決に取り組む体験に没頭しよう。全学体験ゼミと大きく異なり、完結性は追求せず、一点を掘り下げることを重視する。下記①日程では獣害に関する取り組みを題材とし、罾を掛けることから始めてイノシシやシカを解体し、ソーセージにまで加工する。それを五月祭にて販売して、この取り組みを発信してみよう。②日程では林業体験を行う。バイオマス発電が動き出そうという南伊豆町において、木質エネルギー(薪)生産に取り組んでもらう。斧で割る爽快やエンジン式薪割り機の圧巻を体験したり、プロの手ほどきを受けながら安全に留意してチェーンソー体験をしたり。仕上げは、自分たちで製造した薪が使われる現場に納品する。伊豆半島は古より鯉節の産地であり、今も昔ながらの製法「手火山焙乾製法」が生きている。鯉節と一緒にいぶされるのは二度と経験できないことかも知れない。</p> <p>①2/17(土) - 19(月): 伊豆(獣害と向き合いソーセージを作る)          ②3/16(土) - 18(月): 伊豆(林業と向き合う)          2/16(金)、3/15(金)に伊豆に集合(時間等は相談して決める)。          ※2回参加を基本としますが、いずれの回のみでの参加も認めます。ただし、①②は内容が入れ替わることがあります。          ※五月祭でのソーセージ販売という発信は、コロナウィルス感染状況により、実施できない可能性が高いことをご留意ください。</p>		
備考			
参加するための費用*	内 訳(1名当たり)		その他*特記事項は以下に記載
	交通費	25,000 円	
	宿泊費	11,200 円	
	食費	10,000 円	
	計	46,200 円	奨励金額 活動後に算出
ウェブサイト等			